

## 地域活性化活動助成事業活動概要

### 「とのみんな通り」活性化事業

防府市立富海小中学校

#### 1 はじめに

本校は、小学部7学級73名、中学部4学級41名の小規模校である。平成28年から小規模特認校の指定を受け、現在17名の児童生徒が他校区から通学している。小規模特認校指定の経緯には、富海地区の児童生徒数の減少により、学校の統廃合を危惧する地元の要請もあったと聞く。小中一貫教育については、小中学校の校舎が隣接するという強みを生かし、平成22年度から研究が始まり、平成30年度には併設型小中一貫教育校として新たな学校のスタートを切った。その際、旧小学校校舎に中学校の普通教室や職員室を移動させ、施設一体型の校舎としたのである。今回テーマとしてあげている「とのみんな通り」とは、普通教室を移動した旧中学校校舎の空き教室に、地域から寄贈された写真や道具などを展示した民俗資料館的な機能と公民館の分室的な役割をもたせて令和2年度につくった、コミュニティ・スペースのことである。なお、「とのみんな」とは、本校の学校キャラクターの名前である。



地域は学校に対して非常に協力的であり、早くから「琴音の風」という地域ボランティア組織によって、小学部5年生の「稲作学習」や小学部低学年の「芋掘り体験」などの体験学習をサポートしていただいている。また、多くの地域団体の参加によって構成されている「富海地域活性化協議会」では、地域課題に正面から取り組み、富海地域の活性化に向け様々な取組を行っている。今回、本事業の申請段階では、学校に併設するこのコミュニティ・スペースを活性化させるために、富海地域活性化協議会と連携して、以下の2点について取り組むことを提案している。



①地元の文化・特産である藍染めを中学部で行う。具体的には、技術科の栽培分野と美術科の作品作りをコラボさせ、生徒が作成した藍染めの作品をとのみんな通りに展示する。講師は、地元の方を招聘する。

②現在、なかなか人が集まることのないコミュニティ・スペースをどのようにすれば活性化するかを地域・生徒会等で検討し、入りやすく、憩いやすい場所にするための改善を施す。

#### 2 本年度の取組

周知の通り、本年度も新型コロナウイルス感染症により、なかなか思ったように地域を巻き込んだ活動を展開することができなかった。そのような中でも、感染症が下火になった時を見計らっては、地域との交流を進めた。ここでは、本年度力点を置いた、「持続可能な藍染め体験の構築」と「とのみんな通りの新たな可能性」そして、「中学部生徒会が取り組みを始めたボランティア活動」について報告する。

## ①持続可能な「藍染め体験」の構築

「藍と愛の富海」というキャッチフレーズがあるように、富海地域にとって、藍染めは欠かせないものである。数年前までは、地域おこし協力隊の方が藍染め体験を児童生徒のためにしていただいていたが、現在は地域おこし協力隊員の任期も切れ、それも望めない状況である。そこで、学校のカリキュラムの中に「藍染め体験」を組み込み、人的環境が変わっても、子どもたちが藍染めに親しめることができる様に体制づくりをおこなった。

まず、指導者であるが、地元の見守り隊の方が藍染め愛好者であることを知り、その方をお願いしたところ快く引き受いていただけた。さらに、時期的に藍の種を蒔いて育てる時期ではなかったため、藍の苗も分けていただいた。5月には、それを植えて育てるところから学習は始まった。これは、中学1年生の技術科の栽培領域の学習として取り組むこととした。

次に7月には、育てた藍を刈り取り、葉をミキサーにかけて藍の液を搾り取る作業を行った。この液で藍染めを行うことを「生葉染め」と言い、生徒はこの生葉染めを体験することができた。

本来の計画では、この液に石灰やブドウ糖をいれ、「藍建て」を行い、それを使った藍染めの布で美術の作品をつくりたり、文化祭で藍建て体験をしてもらったりしようと考えていたが、夏の暑さや配合する分量の調整ができずに、



液が腐ってしまったため、残念ながら廃棄した。今年の藍建ては断念した。

## ②地域交流の進展

前述の通り、コロナ禍であり、なかなか効果的な地域との連携の時間をもつことはできなかったが、新たな流れとして「認知症カフェ」の誘致がある。これは、とのみん通りの続きにある第2図書室を会場として、毎月1回開催されるものである。現在は、感染症対策のために中止されることが多く、軌道に乗った体制ではないが、将来的には休み時間に児童生徒と交流の時間を設定するなど、夢が広がる取り組みである。

また、昨年度も実施した地域ボランティアによる「ラッピング教室」を開催することができ、多くの児童で賑わった。さらに、高齢者教室を本校で行った際には、「とのみん通り」を見学していただき、当時を懐かしんでもらうなど、少しずつではあるが、場所の活用と周知が進んだ。





### ③新たな胎動

「とのみん通り」の活用とは直接の関係性はないが、地域課題は「地域の活性化」であり、それに生徒会組織が自主的に取り組んだ実践を報告する。

生徒たちは、前述したボランティア団体「琴音の風」のみなさんに、小学時代から農業体験だけでなく、卒業記念植樹などでも大変お世話になっている。また、本年度の生徒会執行部のスローガンは「L i n k」であり、お世話になっている地域とのつながりを強め、何らかの恩返しをしたいと生徒総会で考えたのである。

そこで、学校運営協議会の場で、中学生全員で考えた「富海地域のよさ・課題点」を発表し、「TVG (Tonomi Volunteer Group)」を発足して地域のために自分たちにできることをやりたいと宣言して活動を始めたのである。

右の写真は、富海の名勝「琴音の滝」に続く山道を中学生と地域のボランティアグループの方が整備している姿である。また、子ども会の行事に中学生が指導者として参加してもらいたいという依頼なども徐々に入りはじめている。



### 3 これからの展望

ここまで、本年度の成果をあげてきた。まずは、本助成により藍染めの道具をある程度揃えることができ、大変感謝している。藍染めについては、今年の経験を元に、「種の収穫→種まき→苗植え→刈り取り→生葉建て→生葉染め→作品展示」という年間の流れを考えている。今年行った生葉建てでは絹布しか染めることができないため、布の調達が大変困難であった。そこで、生葉の液を一週間程度建てることで、綿布を染めることができるようになるという聞き、生徒たちに建てさせたいと考えている。また、種まきに向けて、今年の種の収穫も終えている。今年度、ある程度の道具が揃ったので、後は経験を積みながら、持続可能な「藍染め学習」を構築したいと考えている。

また、今年始まった「TVG」の活動であるが、新生徒会にもその思いを引継ぎ、昨年実施できなかった「地域の方と一緒にの熟議」を通して、富海のためにできることを話し合いたいと考えている。地域からいろいろな要望はあると思われるが、実現可能・継続可能な内容を中心に検討させたいと考えている。

余談になるが、地域活性化協議会では、地域住民全員を対象に地域活性化に向けてのアンケートを本年度実施した。その中で、活性化策として住民から挙げられた意見の中には「学校給食を高齢者に配付」や「地域住民が交流できるスペースがあるとよい」などがあつた。毎日給食を提供することはできないが、現実的には「毎月1回の給食試食デーを設け、教室で児童生徒と一緒に食べていただく、そのまま昼休みにとのみん通りで交流する」などの流れは可能である。また、第2図書室を地域開放することにより、地域住民同士の交流の場を提供できるのではないかと考えている。

こういった夢は膨らませながら、「とのみん通り」を中核とした「学校による地域作り」を今後とも進めたいと考えている。